

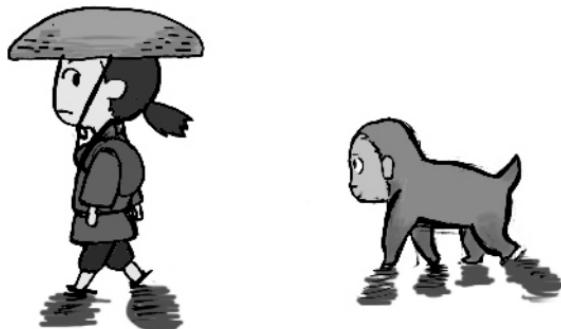
和泉のむかしばなし

槇尾のサルとちえくらべ

まき
お

むかしむかし、善正から滝畠までの山道に、人まねをするサルがおりました。サルは人をからかうのが大好きで、山越えをしようとすると人がいると、かならず、そのあとをつけてきました。

人が三歩すすめば、サルも三歩すすみ、人がとまれば、サルもとまります。



楓尾のサルとちえくらべ

大勢で山越えするときはいいのですが、ひとりで山越えをするときは、みんな困つていました。

あるとき、ひとりの男が山道を歩いていると、いつものようにサルがあとをつけてきました。男はサルを追い払おうと、足元にあつた小石を拾い、サルにむかって投げました。

するとサルはおどろいて男からはなれましたが、すぐにまねをして、足元の石を拾い、男に投げつけてきました。

男はあわてて石をよけ、走つてサルから逃げだしました。

和泉のむかしばなし

しかし、おもしろがつたサルは男を追いかけながら、足元の石を拾い、つぎつぎに投げつけてきました。

なんとか、人里までおりてきた男は頭をかかえました。

帰りも同じ道を通つて帰らなければなりません。

またサルがあらわれて、男のあとをつけてくるかもしれません。

男は一晩考えて、里を出る前にいくつかの小石を懐や袂にいれて、歩きだしました。

気になる続きは



TRC和泉図書館 TRCシティプラザ図書館
TRC北部リージョンセンター図書室にて

絶賛販売中！

定価500円（税込）